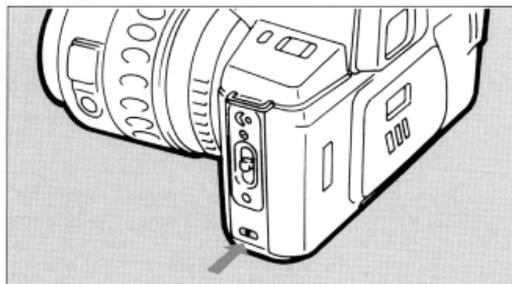


3. 裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

- * 巻き戻しは、24枚撮りフィルムで約15秒です。
- * カメラを使わないときは、電源スイッチを必ず切っておいてください。

- ④ 表示パネルの  の点滅を確認してから、裏ぶたを開けてください。
- ④ フィルムの規定枚数以上の撮影をすると、最後のコマは現像所でカットされる場合がありますので、注意してください。
- ④ フィルムの巻き戻しが、電池の容量不足により途中で停止したときには、裏ぶたは開けずにそのままの状態、電池を交換してください。



フィルムの途中巻き戻し

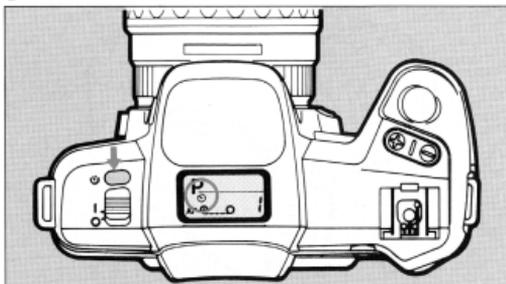
フィルムを規定枚数まで撮り終わらないうちに途中で取り出したいときに使います。

電源スイッチを入れ、 のフィルム途中巻き戻しボタン  を、ボールペンの先などで押してください。巻き戻しが始まります。表示パネルの  の点滅を確認してからフィルムを取り出してください。

1

セルフタイマーの使い方

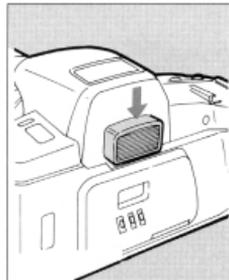
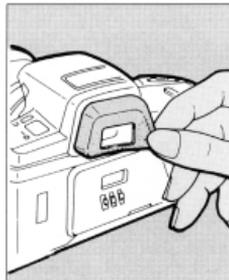
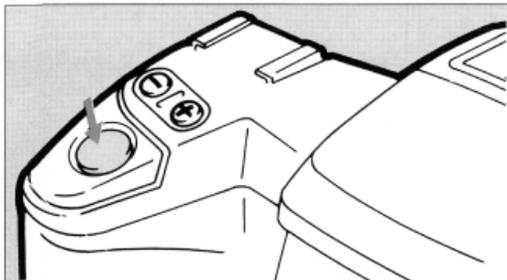
1



セルフタイマーは、撮影者も入って記念撮影などをするときに使います。

1.  ボタンを押すと表示パネルに  が表示され、セルフタイマーモードになります。

応用編



2. 写したい物にピントを合わせ、そのままシャッターボタンをさらに押し込むと約12秒後にシャッターが切れます。

- * ピントが合うと同時にフォーカスロックされます。写したいものが画面中央にないときはフォーカスロック撮影を参考にしてください。[32ページ]
- * セルフタイマーをスタートさせると、電子音で知らせます。シャッターが切れる2秒前から電子音が速くなります。
- * セルフタイマーを解除または始動後中止したいときは、のボタンをもう一度押します。

* セルフタイマーをスタートさせるとき、ファインダーから目を離してしまうとファインダー窓から入る光のために露出アンダーになることがありますので、付属のファインダーキャップをご利用ください。

アイカップFcは、カメラのアクセサリ取り付け溝に取り付けられています。

- * 「視度調整レンズM」や「ファインダーキャップ」などのアクセサリを使うときは、アイカップFcを取り外して使います。
- * アイカップと視度調整レンズを併せて使いたいときは、別売りの「アイカップMII」と「67用視度調整レンズ」を組み合わせてください。

2 フォーカスロックの使い方



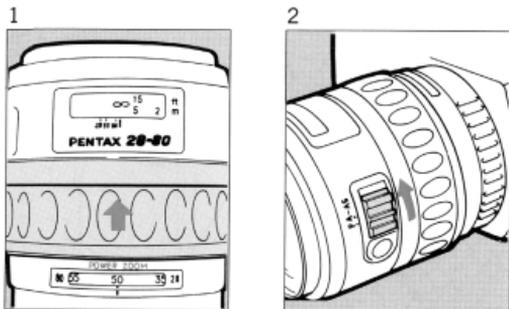
ピント合わせは画面中央のAFフレーム  で行われます。

構図によって、ピントを合わせたいものが画面中央にこないときは、フォーカスロック [ピント一時固定] 撮影をするとピントの合ったきれいな写真が撮れます。

1.  が外れたままで撮影をすると、写真のように後ろにピントが合ってしまいます。
2. ピントを合わせたい物に  を向けて、シャッターボタンを軽く押し続け  を点灯させたままにしておきます。[ピントを記憶させる操作です。]

3. シャッターボタンを軽く押し続け、元の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し込んで撮影します。

- * ファインダー内の  が点灯した直後に元の構図に戻ってしまうと、動体予測モード [19ページ] になってしまい、フォーカスロックが正しく行われなくなることがあります。
- * シャッターボタンから指を離すと、フォーカスロックは解除されます。
- * 撮影距離を変えるときは、一度シャッターボタンから指を離し、フォーカスロックをやり直してください。



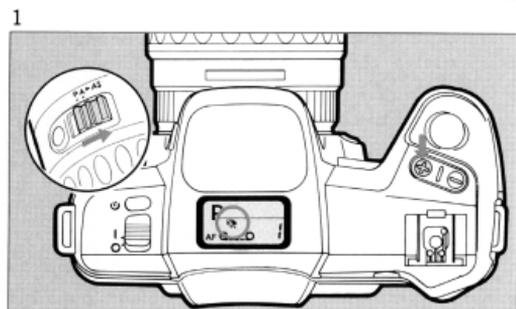
FAズームレンズを用いると以下の二つの便利な機能がご利用いただけます。

- ① イメージサイズ指定モード
- ② ズームクリップモード

1. レンズのパワーズームリングを前側に出して **POWER ZOOM** が見えるようにします。
2. レンズのオートズームスイッチを **A** にします。



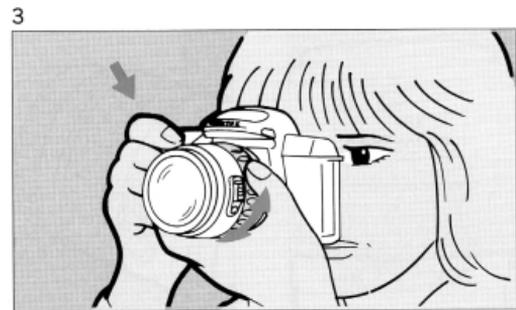
2. シャッターボタンを軽く押しピントを合わせ、**P** を点灯させたままにしておきます。
- * このとき、今まで記憶されている倍率になるように自動的にズームングされます。



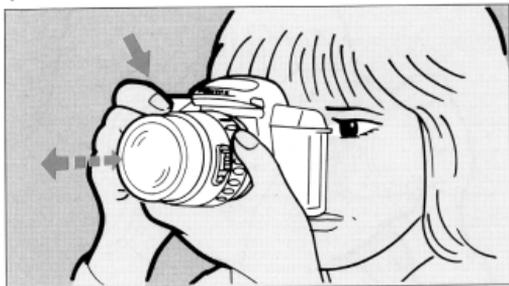
ファインダーをのぞきながら構図を決め、そのときのイメージサイズ [撮影倍率] をカメラに記憶させることによって、撮影距離が変わっても常に記憶されたイメージサイズ [撮影倍率] になるように、カメラが自動的にズームングするモードです。
例えば、近づいたり遠ざかったりしている子供を、同じ大きさで撮影することができます。

1. レンズのオートズームスイッチを **AS** 側に押し付けたまま、表示パネルに **P-A** が表示されるまで、白ボタン **+** を押してください。
- * イメージサイズ指定モードをやめるときは、オートズームスイッチを **P** にします。

33



3. シャッターボタンを軽く押したまま、パワーズームリングを回して好みの位置までズームングします。
- * パワーズームリングから手を離すとイメージサイズが記憶されます。
- * ピントを合わせた後でズームングをすると、多少ピントがずれてしまうことがあります。この場合には、もう一度ピント合わせをやり直してからズームングしてください。



4. 撮影します。シャッターボタンを軽く押すと、撮影距離が変わっても被写体の大きさが一定になるように自動的にズームリングします。

- * イメージサイズ指定モードでは、動体予測 [19ページ] が動きませんので、速く動く被写体にはお勧めできません。
- * ズーミング中にシャッターボタンを押し込んでしまうと、指定したイメージサイズになりませんので、シャッターボタンは、ズームリングが終了してから押し込んでください。
- * 撮影距離が近すぎたり遠すぎたりするとズームレンズの焦点距離範囲を超えてしまい、指定したイ

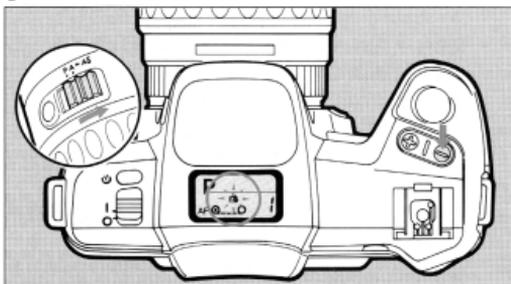
メージサイズになりません。また、他のレンズに交換した場合も、前のレンズで記憶したイメージサイズで制御されますので、指定したイメージサイズにならない場合があります。

- * イメージサイズ指定モードのときにフォーカスレバーを [AF] から [MF] にすると、ズームクリップモードに切り替わります。
- * 電源スイッチを切っても記憶されている内容は消えません。
- * 電源スイッチが入ったままレンズを外したり、レンズ交換をすると記憶している内容が消えてしまいますので、記憶内容を残したい場合は、電源スイッチを切った状態で行ってください。
- * 新たにイメージサイズを記憶させると、今までの内容は消えてしまいます。
- * イメージサイズを決めるときには、焦点距離をズームレンズの焦点距離範囲の中間付近にすると、利用範囲が広がり使い易くなります。例えば、28~80mmレンズでしたら焦点距離を50mm付近にセットすると便利です。

⑤ 電池を抜くと記憶している内容は消えてしまいますのでご注意ください。

5 ズームクリップモードを使います

1

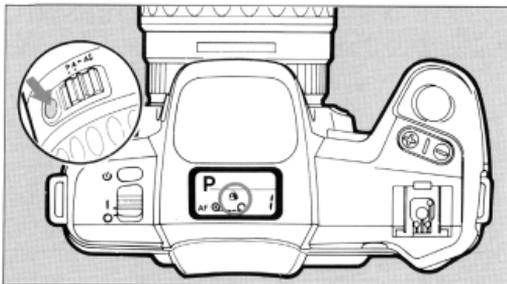


ズームクリップモードは、カメラに焦点距離をあらかじめ記憶させておくことによって、必要ときにワンタッチでその焦点距離での撮影ができるモードです。例えば、動きの激しいスポーツ写真で、予測される場面の撮影範囲【焦点距離】を記憶させておけばシャッターチャンスに便利です。

2

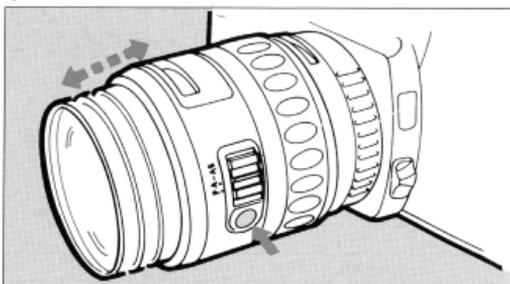


1. レンズのオートズームスイッチを [AS] 側に押し付けたまま、表示パネルに [] の表示が点滅されるまで、黒ボタン [] を押してください。
- * ズームクリップモードをやめるときは、オートズームスイッチを [P] にします。
2. ファインダーをのぞきながら、パワーズームリングを回して、好みの撮影範囲に合わせます。



3. レンズのズームセットボタンを押すと、表示パネルの 表示が点灯になります。

- * これで撮影範囲が記憶されました。
- * 電源スイッチを切っても記憶されている内容は消えません。
- * 電源スイッチが入ったままレンズを外したり、レンズ交換をすると記憶している内容が消えてしまいますので、記憶内容を残したい場合は、電源スイッチを切った状態で行ってください。



4. 撮影します。ズームセットボタンを押すだけで、すぐに記憶されている撮影範囲 [焦点距離] にすることができます。

- * 次回、同じ撮影範囲で写すときは、表示パネルに を表示させてからズームセットボタンを押してください。
- * 新たに撮影範囲を記憶させると、今までの内容は消えてしまいます。

● 電池を抜くと記憶している内容は消えてしまいますのでご注意ください。

6

Z-10 と各種レンズを組み合わせたときの機能

機能	レンズ [マウント] 注1	FAレンズ [KAF2]	Fレンズ [KAF]	Aレンズ [KA]	Mレンズ [K]	Sレンズ [P]
オートフォーカス	レンズ単体 +AFアダプター-1.7X	○	○	×	×	×
マニュアルフォーカス	FI表示の利用 注2 マット面の利用	○ 注4	○ 注4	○ 注4	○ 注4	×
パワースーム		○ 注5	×	×	×	×
ズームクリップ		○ 注5	×	×	×	×
イメージサイズ指定		○ 注5	×	×	×	×
プログラム自動露出		○	○	○	×	×
マニュアル露出 注6		○	○	○	○	○
プログラムTTLオートストロボ撮影		○	○	○	×	×
TTLオートストロボ撮影		○	○	○	○	○
マニュアルストロボ撮影		○	○	○	○	○

注1：各マウントに関しては、39ページをご覧ください。

注2：ファインダー内の 表示にしたがって行う手動のピント合わせ。[FI=フォーカスインジケーター]

注3：レンズの開放F値がF2.8より明るいレンズのみ。[詳しくはAFアダプターの説明書をご覧ください。]

注4：レンズの開放F値がF5.6より明るいレンズのみ。

注5：ペンタックスFAズームレンズのみ可能。

注6：ハイパーマニュアルも使用可能。

フォーカスレバーを に合わせてKAマウント [Aレンズ] やKマウント [M、Pレンズ] を使うと、「スナッピンフォーカス撮影」[被写体が来る位置にあらかじめピントを合わせ、シャッターボタンを押したままにすると、ピントの合った瞬間にシャッターが切れる。] ができます。[ケーブルスイッチF使用可能]

カメラ・レンズのマウントについて

マウント分類名称	レンズ分類名称	カメラ代表機種
① K _{AF2} マウント	ペンタックスFAレンズ	Z-10
② K _{AF} マウント	ペンタックスFレンズ	SFX _N 、SF7
③ K _A マウント	ペンタックスAレンズ	スーパーA、P30 _N
④ Kマウント	ペンタックスMレンズ およびペンタックスレンズ	LX、K1000
⑤ スクリューマウント	SMCタクマーレンズなど	ESII、SP

①～④のレンズはKマウント [バヨネット式] です。

①～②はオートフォーカス対応レンズです。

③～⑤はマニュアルフォーカスレンズです。

⑤は旧タイプのねじ込み式レンズでマウントアダプター-Kを使って取り付けます。

①～③は絞リングに [A] [オート] が付いています。

ペンタックスFAレンズはKマウントに以下の物が追加されており、従来のKマウントカメラにも使えるよう上位互換を保っております。

Kマウント互換イメージ図

- ・パワーズーム用電源ピン
- ・AFカブラー
- ・レンズ情報接点

K_{AF2}マウントレンズ

- ・パワーズーム用電源ピン
- ・AFカブラー
- ・レンズ情報接点

K_{AF}マウントレンズ

- ・AFカブラー
- ・レンズ情報接点

K_Aマウントレンズ

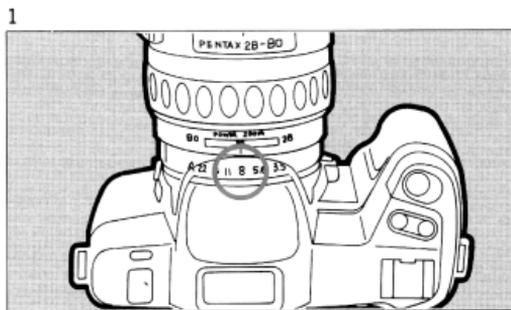
- ・レンズ情報接点

Kマウント
レンズ

39

8

マニュアル露出の使い方



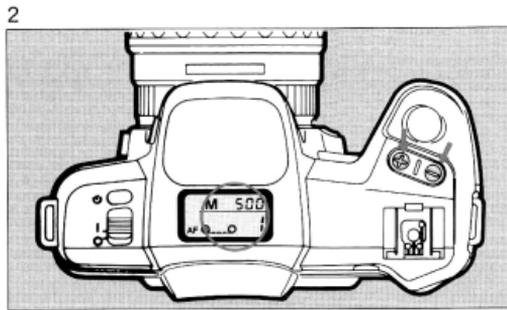
マニュアル露出

シャッター速度と絞り値を任意に決めることができます。常に一定の露出で撮影したいときや、意図的に露出を変えて撮影するときに使います。

マニュアル露出では、41ページ図3に示すようにファインダー内中央部の限られた範囲だけで露出を測るスポット測光になりますので、写したいもの[露出を測りたいもの]にこの範囲を合わせて露出を測ってください。

1. 絞りを [A] [オート] から外し、好みの絞り値にセットしてください。

* 絞りを [A] から外すときは、絞りオートロックボタンを押しながら絞リングを回してください。



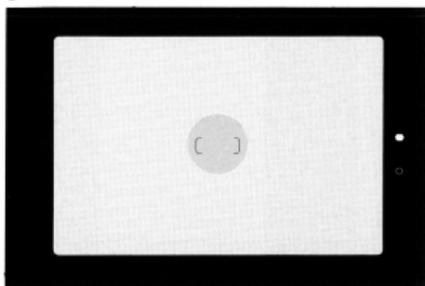
2. シャッター速度を選びます。

図のように、速い速度にするときは、白ボタン [+] を押し、遅い速度にするときは黒ボタン [-] を押しします。

* 表示パネルに [M] とシャッタースピードが表示されます。

* 1回押すと一段ずつ変化し、押し続けると連続して変化します。

3



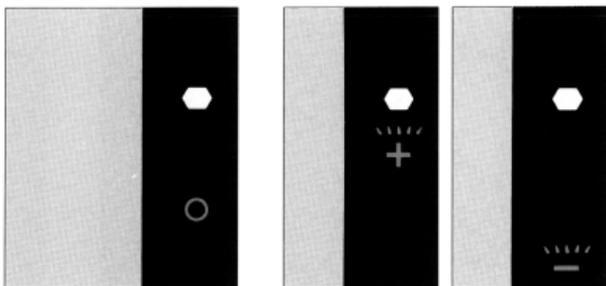
3. 露出を測りたいものを画面中央部の範囲に合わせます。

* スポット測光では、画面中央部の狭い範囲だけで露出を測っています。この部分と他の部分の明暗差が大きい場合には、全体の明るさを考慮して露出を決めないと、不自然な写真になってしまう場合があります。

4. シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に \oplus ・ \odot ・ \ominus のいずれかの表示が出ます。 \oplus は露出オーバー、 \odot は適正露出、 \ominus は露出アンダーです。

絞りリングによって絞りを、白ボタン \oplus ・黒ボタン \ominus によってシャッター速度を変えて露出を決め、撮影してください。

4

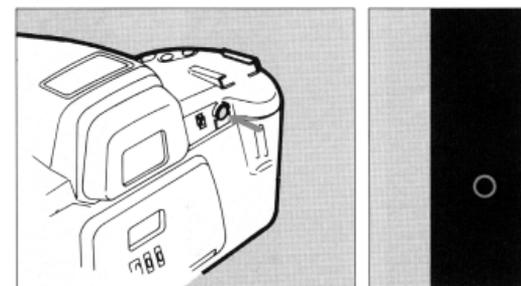


※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎる場合や、絞りの選択が適当でないときは、図のようにファインダー内の表示が点滅して警告します。このままでは、適正露出が得られません。 \oplus が点滅しているときは、絞りリングをF22など数字の大きい方に回して点滅をなくしてください。 \ominus が点滅しているときは、絞りリングをF1.4など数字の小さい方に回して点滅をなくしてください。点滅をなくし、絞りやシャッター速度を変えてファインダー内に \odot を表示させれば、適正露出で撮影できます。絞りを回しても \oplus の点滅が消えないときはNDフィルターを、 \ominus の点滅が消えないときはストロボをご使用ください。

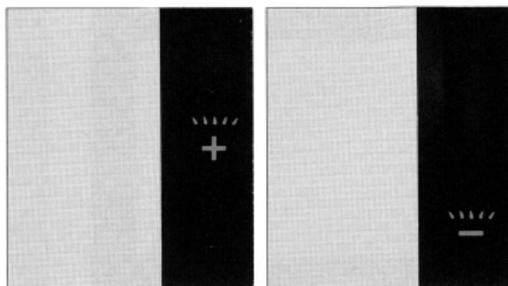
41

9 ハイパーマニュアルの使い方



ハイパーマニュアルは、マニュアル露出モードでありながら、ボタン操作一つで適正露出が得られる便利な機能です。

そのまま適正露出で撮れば、絞り優先自動露出的な使い方ができます。また、意図的に露出をオーバーにしたり、アンダーにしたいとき、ハイパーマニュアルを使って一旦適正露出を求めると便利です。

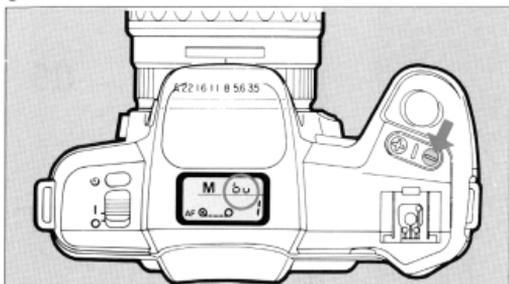


- * ハイパーボタンを押したときに、ファインダー内の \oplus や \ominus が点滅しているときは適正露出になりません。絞りを調節して点滅をなくしてください。
- * ハイパーボタンを押している間、表示パネルに HYP が表示されます。

* ハイパーボタンを押すと、セットした絞りに対して適正露出になるよう、シャッター速度が切り替わり、ファインダー内に \odot が表示されます。

42

1



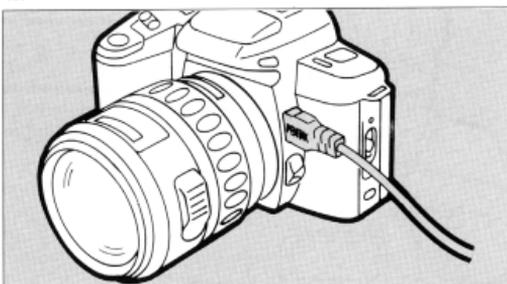
花火、夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。

シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。

1. マニュアル露出の状態、黒ボタン \square を押し、表示パネルに **bu** [バルブ] を表示させます。

* バルブにするとファインダー内の露出表示はされません。

※



※ バルブで撮影するときは、しっかりした三脚を使用し、図のように別売りの「ケーブルスイッチF」をリリースソケットに差し込んでご利用ください。

* 新品のリチウム電池 [常温] で、約12時間の長時間露出ができます。

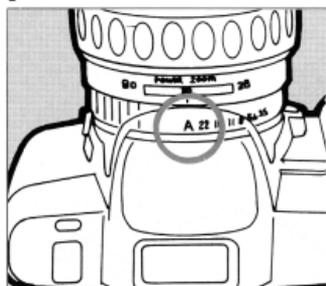
応用編

43

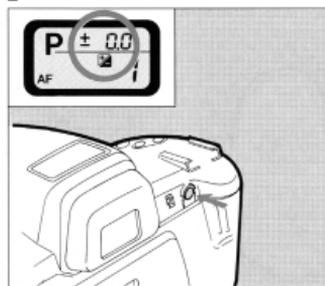
11

露出補正の使い方

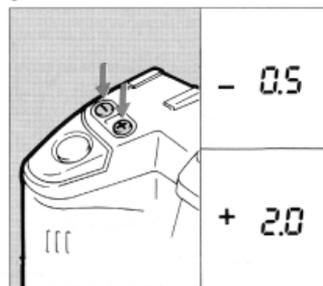
1



2



3



プログラム自動露出のときに、写真の画面全体を意図的に露出オーバー [明るい写真] や露出アンダー [暗い写真] にしたいときに使用します。また、写したいものが極端に小さく、分割測光でも適正露出にならないような場合、露出を補正するために使用します。

1. プログラム自動露出 [絞りをA位置] にします。
2. ハイパーボタンを押すと、表示パネルに ± 0.0 と \square が表示されます。
3. 白ボタン $+$ ・黒ボタン $-$ を押して好みの露出補正値を選びます。表示パネルに補正値が表示されます。

- * シャッターボタンを軽く押すとファインダー内にも $+$ あるいは $-$ が表示されます。
- * 補正値は、 $-3.0 \sim +3.0$ EVの範囲で0.5EVごとに行えます。
- * もう一度ハイパーボタンを押すと通常のプログラム露出の表示に戻り、補正値は0になります。
- * ペンタックス・専用オートストロボを使用して撮影するときも、露出補正が働きます。
- * 電源スイッチを切ると補正値は0になります。

応用編

44